

3年目の作付
に向けて

平成28年度・第一回 新潟県山田錦協議会

健強な苗づくりで品質の安定と向上を



平成30年からの農政の大転換期が間近に迫り、需要に応じた米づくりが求められております。幸いなことに、我々は旭酒造様といち早く栽培契約を結ぶことが出来ました。

山田錦の産地間競争が激化する中、安定品質・安定供給に向けて、本年の作付は、新潟県の水稲栽培技



80名あまりの生産者が集まりました

術の真価が問われるのではないかと思えます。研修会での注意事項を再度見返し、淡路先生から「苗八分作」と言われておりました。本田での管理も大切ですが、それ以前に浸種から育苗期間を今更以上以上に気を使い、健強苗を作ることができれば、旭酒造様と獺祭を飲まれるお客様に喜んで頂ける山田錦を供給できるのではないのでしょうか。

本年も「良い米作ろう」がんばりましょう！

《文：榎白熊 佐藤 司》

浸種・育苗・植付のポイント



- ① 種の消耗をさせない…水温、積算温度に注意！
細胞浸種始めく3日間「カクサンアミノ」千倍液に浸ける
水温に注意！高温でも低温でも消耗します。適温10℃～12℃
積算60℃かかったら、水替え2日に1回、酸素液「MOX」100倍(夕方)朝…水から上げて酸素供給、翌朝…新しい水に浸ける)
- ② 催芽時に根も出させる…酸素が必要！
積算温度がかかったか、しっかり確認！
ハトムネ催芽器…酸素液「MOX」催芽時50倍
種籾を消耗させない！催芽は28℃、20時間以内で完了する
- ③ 1葉の葉面積を大きく(耐肥性を高く)
…ハウス内の湿度に注意！
1葉の長さ…2.0～2.5cm
種籾く1葉までの高さ…3.0～3.5cm
過湿でも乾燥でもダメ！ハウス内に軽く散水してから苗箱を並べる
- ④ 苗の仕上げ、初期生育に差がつきます (ここままで不完全な場合は絶対実行)
1.5葉期に「サンプロ」+「果糖」葉面散布
- ⑤ 2葉で植付
…老化苗の植付は厳禁！植付後のスタートダッシュ！
田植目安時期…5月10日～15日頃
田植は苗の仕上がり状況に応じて行うこと(早くても可)
植付5日前と前日 「住友液肥M号441」(300倍液・500cc/箱)灌水で根をさらに活性化
- ⑥ 健強苗をより作りやすく、良好な初期生育のために
パワフルグリーン培土をお試しください。
※水溶性ケイ酸十亜リン酸配合
- ⑦ 4・5・6葉の葉面積が重要です！
(耐肥性の高い稲作り)
田植え後15日以内に「ハイリンサン」15kg/10a散布